

「心に残るとっておきの 本や文章を選んですいせん文を書こう」

～目的に応じて効果的な読み方を活用し、推薦文を書くことができる～

B③「本や文章を読んで推薦文を書く」の結果を分析したところ、2人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由の違い、本の選び方や読み方の違いを区別して捉えることに課題があることが分かりました。そこで、本授業アイデア例ではこれらの課題を解決するために、児童1人1人が心に残るとっておきの本や文章を選んで推薦文を書くという単元を構想しました。なお、本授業アイデア例は、第5学年以上を対象にしました。



授業アイデア例

単元の指導計画（全5時間）

単元を貫く
言語活動

<主な学習活動>

〔指導上の留意点〕

第一次

- これまで読んだ本や文章の中でお気に入りの作品を伝え合い、学習課題「心に残るとっておきの本や文章を選んですいせん文を書こう」を設定し、学習計画を立てる。

- これまで学習してきた「紹介」という言語活動を行い、どのような力が付いてきたか振り返るようにする。
- 「紹介」と「推薦」の違いについて話し合い、下記のポイントを参照しながら推薦の特徴を確認する。

第二次

- 既習の教科書教材（物語）の特徴と【物語を推薦するとき注目する6つの読みの観点】との関連について話し合う。

- ②の学習では、定番の教材を全学年にわたって取り上げるようにする。（「おおきなかぶ」、「お手紙」、「大造じいさんとガン」など）

- B③の2人の推薦文を比べて読み、本の選び方や読み方の違いを捉える。

- ③の学習では、読みの観点を捉えることができるよう、設問二の選択肢1～5を基にして指導する。

- B③の2人の推薦文を基に、推薦文の具体的な書き方について話し合う。

- ④の学習では、2人の推薦文の具体的な書き方について、形式段落ごとに分析できるようにする。

第三次

- 本や文章を読んで推薦文を書き、交流する。

Aパターン

これまで読んだ本や文章の中から推薦する作品を選び、推薦文を書く。

Bパターン

教科書教材（物語）と関連した並行読書を通して推薦する作品を選び、推薦文を書く。

心に残るとっておきの本や文章を選んですいせん文を書こう

第二次（2／5） の授業の様子

既習の教科書教材（物語）の特徴と【物語を推薦するとき注目する6つの読みの観点】との関連について話し合う

【板書例】【物語を推薦するとき注目する6つの読みの観点】

- ア 文章の種類や形態（ジャンル）
- イ 登場人物（人物像、人物相互の関係）
- ウ 構造・展開（「人物と状況設定・事件の発端・展開・山場・結末」、「起承転結」）
- エ 表現・叙述（場面についての描写、文体、人称）
- オ 意図（ものの見方や考え方）や題材（人・もの・こと）
- カ 作者（作者の生き方や考え方、作者に影響を与えた人・もの・こと）

ポイント！

推薦について

本や文章を推薦する際には、それらをよく読み、特徴を捉えて推薦することが必要です。文章の内容を引用したり、要約したりして、自分が読んで感動したところを伝え、相手の読書意欲を喚起することが大切になります。その際、作品を評価する言葉（「心が温まる」、「深い味わいがある」など）や推薦の言葉（「～をおすすめします。」など）を工夫することがポイントです。

※ 実際の発言（例）を次のページに示す。

B③ーア

正答率 50.0%

【本間さんが書いたすいせん文】において推薦している対象を書く

B③ーイ

正答率 45.4%

【花田さんが書いたすいせん文】において推薦している理由を書く

B③ーウ

正答率 44.8%

【本間さんが書いたすいせん文】において推薦している理由を書く

B③二

正答率 52.1%

2人の推薦文を比べて読み、それぞれの読み方として適切なものを選択する

〔第5学年及び第6学年〕C イ エ カ

学習指導要領に示されている
言語活動例との関連

〔第5学年及び第6学年〕C エ

教科書教材の特徴と6つの観点との関連について説明した発言（例）※下記のア～カは【板書例】に対応（前ページ参照）

「おおきなかぶ」
ア, ウ, エ

協力してくれる人がだんだん増えて、最後にかぶが抜けるという展開の面白さは、ウに関連があるわね。また、「うんとこしょ、どっこいしょ」という表現の繰り返しはエに関連しているわ。それに、この作品はロシアの民話だから、アも関連しているのではないかしら。

「大造じいさんとガン」
イ, オ, カ

この作品では、仲間を守るリーダーの強さが伝わってくるよ。このことは、イやオに関連するね。また、^{むくはとじょう} 棕鳩十は動物を題材にした作品をたくさん書いているから、カも関連してくると思うよ。

第二次（3／5）
の授業の様子

B③の2人の推薦文を比べて読み、本の選び方や読み方の違いを捉える

花田さんは、「ごんぎつね」についてウとエに注目しているね。そして、特に物語の最後の部分を取り上げ、青いけむりに込められた意味を考えているよ。
（※選択肢5と対応）



本間さんは、新美南吉の作品を複数読み、主人公のものの見方や考え方に注目しているわよ。だから、イとオとカが関連しているね。
（※選択肢3と対応）

ワンポイント発問

選択肢4の読み方の場合、どのような作品をどのように推薦しますか。



教師

【B③設問二の選択肢】

- 1 同じ題材で、複数の作者が書いた作品を取り上げ、作者の考えを比べながら読んでいる。
- 2 一つの作品を取り上げ、自分の考えと作者の考えのちがいを明らかにしながら読んでいる。
- 3 同じ作者の複数の作品を取り上げ、登場する主人公に注目しながら読んでいる。
- 4 同じ主人公が登場する作品を取り上げ、そのおもしろさをまとめながら読んでいる。
- 5 一つの作品を取り上げ、注目した物語の最後の部分や全体を何度もくり返し読んでいる。

「お手紙」は、『ふたりはともだち』に入っている作品です。シリーズを通して見られるがまくんとかえるくんの人物像をまとめて推薦したいと思います。

第二次（4／5）
の授業の様子

B③の2人の推薦文を基に、推薦文の具体的な書き方について話し合う

推薦の言葉の例として、以下のようなものがあります。

- ・～をすいせんします。
- ・～をおすすめします。
- ・～にぴったりです。
- ・～の良いところは…です。
- ・ぜひ～してほしいです。



花田さんは、問かけの文で書き始めたり、本文を引用したりすることで、読む人が興味をもつよう工夫しているわ。また、「おすすめします」、「ぜひ読んでほしい」という推薦の言葉を使っているわよ。

本間さんは、作者に興味をもったきっかけから書き始め、心に残った作品の説明をしているね。そして、最後の段落で自分の経験した読み方を推薦しているよ。



本授業アイデア例 活用のポイント

- 本授業アイデア例を基にし、国語科の学習のみならず、各教科等の学習に役立つ本を推薦し合ったり、日常の読書活動の中でお気に入りの本を推薦し合ったりすることにつなげることができます。

4	3	2	1	形式 段落
○最後に評価のことば（深い味わい）を書いている。 ○自分の読み方を書いている。 ○ことばをくふうしてすいせんしている。	○登場人物の関係への感想をのべている。 ○物語の展開（おどろき）を書いている。その物語の感想をのべている。 ○「おじいさんのランプ」のあらすじ、それを「読んだ感想」を書いている。 ○「さきさき」をくふうして書いている。	○文を引用して自分の感想（心）になる部分ののべている。 ○深く読みたくなったことを書いている。 ○「おじいさんのランプ」のあらすじ、それを「読んだ感想」。 ○心外温まりますという作品への評価の言葉を書く。	○特定の人物に「読み方」についておすすめしている。 ○問いかけの文が書いてあり、自分がすいせんする物語をおすすめしている。 ○読み方（自分）を書いている。特に心に残った作品をあげている。	「花田さんが書いたすいせん文」に書かれている内容や表現のくふう 「本間さんが書いたすいせん文」に書かれている内容や表現のくふう

「二人の推薦文を形式段落ごとに分析した表」